



評價規則

大藏省火
災保険取
調査之印

32
10

10

三二

14
枚



114
A 3617
3



規則

第一條

保險條例第二十三條ニ據リ地方保險局ニ於テ
撰定スベキ評價人ハ其地建築諸職工ノ中ニ就
キ工事練達性質廉直ノ者ニハ或ハ三人ヲ以テ
一組トシ組合ノ數ハ其地方家屋ノ多寡ニ應ニ
適宜ニ之ヲ定メ且給料ハ各地相當ノ見込ニ委
ヌルモノトス

第二條

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

評價人ヲ補換スルハ身元愷カナル保証人ヲ
立^行評價ノ際毫モ私ナキ旨ヲ証セシムベシ
但保証書式ハ第一雛形ニ準ス

第三條

評價人ハ相当ノ身元保証金ヲ出サシム
但金額ハ評價ヲ撰^擔任セシムベキ地方ノ大小
屋数ノ多寡ニ應シ地方保険局ノ見込ヲ以テ
定ムト虽凡必ス三十拾圓以上タルベシ

第四條

右金額ヲ出スルハ地方保険局ヨリ受領証書ヲ

交附シ是ヲ同局ニ預リ置キ後子評價人ヲ免ス
ルカ又ハ当人死亡スルニ方リ受領証書ト引替
還附スベシ

第五條

評價人ハ行務上總テ地方保険局ノ指揮命令ニ
従フモノナリト虽凡臨時^保險^委員^局並ニ中興
保險局又ハ支局ヨリ命令スルテアルハ亦遵
奉セザルベカラズ

第六條

地方保険局ハ此規則ニ照準シテ評價事務ヲ指

揮監査シ評價不當ノ患ナカラシムベキモノト
ス

第七條

地方保険局ハ保險條例第三十六條ニ隨ヒ當籤
施行區ノ評價ヲ始ムルニ先々豫メ其區郡長
ニ命シ左ノ(甲)(乙)(丙)諸項ニ照準シ各當地ニ就テ
家屋ニ番号札付サシムベシ
但神社佛閣ハ番号ヲ付スルノ前豫メ布告シ
テ保險ヲ受ルト否トラ申出シムベシ

(甲) 各當地ノ内家屋ノ所有主是人ニ止マ

ルモノハ第二天号雜形ニ照準シ番号
ヲ記スベシ

但已ニ番号ヲ付シタル后改築新築
又ハ増築(本屋ト所有ヲ異ニスルモ
ノ)シタル家屋ノ番号ハ臨時ノ便宜
ニ從テ定ムベシト雖モ此際他ノ家
屋ノ番号ハ成丈ケ舊ニ據リ変更セ
サル様注意スベシ

(乙) 同當地ニ於テ各家屋若シ所有主ヲ異
ニスルハ第二天号雜形ニ照準スベシ

シ
(丙) 二箇又ハ数箇ノ省地ニ跨リタル家屋
ハ地主借地人ヲ問ハズ所有主一人ナ
レバ第二人号(甲)雛形ニ照準シ数人ナ
レバ同号(乙)雛形ニ照準スベシ

第八條

右番号ヲ付シタル后テ其家屋所有主ヨリ第三
雛形ノ繪圖面ヲ正副二通出サシムベシ

第九條

地方保険局ハ管内各施行區家屋ノ評價ヲナス

ニ先テ豫メ其郡區役所ニ命ジテ評價ノ時日ヲ
人民ニ告知シ且若シ評價人ヨリ請求スルコト
ルハ之ニ應ジテ行務ヲ補助セシムベシ

第十條

保險條例ノ定規ニ從ヒ保險部外又ハ區域外ニ
屬スルモノハ總テ評價スルヲ要セズ

第十一條

地方保険局ハ評價ノ平等ヲ得セシメンカ爲メ
評價換算表ヲ作り豫シメ評價ノ標準ヲ定ムベ
シ

右模範表ハ其地ニ現在スル建家ノ模範ニ倣ヒ
各性質(石造、煉瓦造、土造、木造)毎ニ本建、屋根、造作
ノ三部ニシテ材料(金釘類其他一切ノ金屬ハ之ヲ
除ク)ノ良否工事ノ精粗ニ據テ等級ヲ分テ仕様
書ヲ作り、総評價人ヲシテ下条十三條ニ從ヒ各
等毎ニ投票評價セシメ平均數ヲ取りテ價格ヲ
定ムルモノトス

但保險區ヲ異ニストモ土地甚々隔絶セスレ
テ家屋ノ種類建造ノ性質及ヒ諸材工料等大
差ナキモノハ隣區ノ模範表ヲ魚用レ又ハ數

區ヲ合シ模範表ヲ作ルモノトス

第十二條

地方保險局ハ上条八條ニ從ヒ豫メ家屋所有主
ヨリ差出サセ置タル繪圖面ヲ其區受持ノ評價
人ニ下付スベシ

第十三條

家屋ノ價格ヲ評定スルニ方リ先ツ其新ニ築造
スベキ費用即チ新築價ヲ算定スベシ而シテ算
定ノ順序ハ左ニ揭示スル如シ

(甲) 新築價ハ各保險區ニ於テ諸材工料等前

十ヶ年ノ相場ヲ取り最上最下各二年ヲ
引去餘六年ヲ平均シテ定ムルヲ法トス
右新築價ハ十ヶ年間之ヲ据置キ毎十一
ヶ年目ニ再ヒ前法ニ依リ改定スルモノ
トス

但上第十一條但書ノ制ニ從ヒ隣區ノ
換範表ヲ兼用シ又ハ數區ヲ合シ換範
表ヲ作ルルハ其隣區ト本區トノ平均
相場又ハ其數區内ノ平均相場ヲ用ユ
ルモノトス

(七) 諸材ノ種類ハ小内外障壁ノ品位建築ノ
精粗堅脆、築造諸工ノ價格ヲ換範表ニ照
準算定スベシ

第十四條

前條ノ手續ヲ以テ家屋ノ新築價ヲ算定スル後
テ復々夫ノ方法ニ從テ現今價ヲ評定スベシ

(甲) 築造諸材ノ衰替ヲ見料リ其減價ヲ積算
シ且諸工料モ此減價ノ割合ニ從ヒ減ス
ルモノトス
但此減價ヲ積ルニ方リ當タ家屋經過

、年数ノミナラズ其他尚ホ使用ノ性
質、建地ノ燥濕、高低ニ注意スベシ

(七) 如斯ク積リタル減價ヲ新築價中ヨリ除
算シ其残額ヲ該家屋ノ現今價即チ保險
元價ト定ム

第十五條

凡ソ家屋評價ニ際シ其賣買價及ヒ利用價ハ毫
モ注意スルヲ要セス故ニ其地及ヒ家屋ノ便否
又ハ推理義務等モ美定上ニ於テ更ニ顧慮スル
トナキモノトス

第十六條

日本造ハ屋根、棟、梁等(小屋廻り)柱、土臺、薪床、
壁(中塗迄)底ヲ素建トシ此他ハ都テ造作トス尤
モ土造並ニ塗屋ノ戸ニシテ火災防禦ノ為メニ
用ユルモノハ素建ニ美入ス

西洋造ハ素建ト造作トヲ區別セバ
但和洋混淆ノ家屋ハ素建造作ノ別ナク日本
様ノ分ハ日本造家屋ノ範圍ニ據ル

第十七條

保險條例第四條ニ随ヒ評價ノ上拾圓ニ充ザル

家屋及び永久に渉ル小屋牝ハ其旨ヲ評價簿ニ
記載スベシ

又同條ニ從テ借家人其他所有主外ノ者ニ於テ
設営セル増築ニシテ評價上拾円以上ニ至ル者
ハ尋常家屋ノ評價手續ニ準スベシ

第十八條

神社佛閣ハ上第七條但書ニ隨テ保險請永ノ分
ニ限リ評價スベシ

但都テ尋常家屋ノ評價規則ニ據ルモノト雖
モ素建造作ハ之ノ區別セザルモノトス

第十九條

新築、改築、修繕、模様替ノ家屋ハ全屋ニ係ルト各
部域ニ止マルトニ拘ハラズ其工事落成ノ上(素
建ト造作ト)所有ヲ異ニスルモノハ素建落成
ノ上評價スルモノト雖モ僅ニ一小部分ヲ餘シ
實際使用ニ差支ナシト認ムルモノハ落成ト見
做シ又工事尚ホ半ナルモ(新築、改築ハ屋根ヲ葺
タルモノ)之ヲ中止シテ三ヶ月以上ニ至リ当分
築造ヲ取統ビキ見据ナキモノハ其現成ノ分ニ止
メ評價スルヲ得ベシ故ニ一般評價ノ際ニ方リ

テ工事未タ落成ニ至ラザルモノアルハ其工
事ニ係ル全屋又ハ部域ヲ除クベシ

但工事ノ部僅少ニシテ甚タ家屋保険金ノ増
減ヲ生スルコトナキモノハ其部ヲ除キ評價ス
ルモノトス

第二十条

保險條例第十八條ニ據リ家屋ノ一部ヲ毀解ス
ル歟又ハ廢類、破壞ノ終棄置モノハ其部ヲ評
價スベシ

但保險施行ノ際評價ニ係ル家屋ニシテ毀解

中又ハ豫メ三ヶ月以内ニ毀解スベキヲ証ス
ルモノ(借地人ナレバ地主ノ保証ヲ要ス)及ヒ
廢類、破壞ノ終棄置モノハ全部ナレバ之レヲ
除キ全部ニアラサレハ毀解、廢類、破壞ノ部
ヲ除キ評價スルモノトス

第二十一条

家屋諸材及ヒ諸工物類中全ク一種特別ノモノ
ニ係リ評價人ニ於テ實際價定ニ能ハザルモノ
ハ地方保險局ハ時ニ専門ノ鑑定者ヲ撰ミ評價
ヲ命スベシ

第二十二條

評價人ハ如斯ク評定シタル家屋ノ價格及ニ種類性質等ヲ第四雜形ニ準シ明細ニ記録シ地方
保險局ニ出スベシ

第二十三條

地方保險局ハ右明細書ニ據リ第五雜形ニ準シ
家屋價定表ヲ作り中央保險局ニ上申スベシ

第二十四條

地方保險局ハ右價定表ニ據リ家券ヲ作り郡區
役所ニ下附シ該役所ハ各家屋所有主ヲ呼出シ

家券ヲ授與シ帳簿ニ記名調印セシムベシ

第二十五條

地方保險局ハ保險條例第二十六條ニ從ヒ如シ
評價ヲ不當或ハ無効ト思考スル歟又ハ家屋所
有主ヨリ確証ヲ具シ不當又ハ無効ヲ告訴スル
時ハ再評價セシムルヲアルベシ

第二十六條

保險條例第二十八條ノ控訴ニ関シ中央保險局
ヨリ實地審査ノ為メ臨時評價人ヲ派出セシム
ル時ハ地方保險局ハ其需ニ應シ行務ヲ補助ス

べシ

第二十七條

保險ヲ受タル家屋火災ニ罹ルハ地方保険局
ハ其焼失ノ場所ニ速(燒ケ残リノ部分ヲ撤壊シ
若クハ之レヲ修繕スル前)ニ評價監督人ヲ派出
シ該家屋所有主又ハ其代理人ノ立合ヲ以テ其
保險區ノ評價人(若シ其評價人アラザルハ隣
區ノ評價人)ヲ指揮監督シテ下條ノ手續ヲナサ
シムベシ

第二十八條

家屋焼失ノ損害ヲ評價スルニ方リ僅ニ家屋ノ
細小部分ヲ焼損スルモノハ唯其損害部分ノ
ヲ評價シテ足レリト雖モ其損害ノ稍々大ナル
者ハ啻々損害ヲ受タル部分ノミナラズ亦焼残
ノ部分ヲモ評價シ彼是相卷酌シテ損害ノ金高
ヲ定ムベシ

第二十九條

凡ソ評價監督人ハ評價ニ山ルニ際シテハ必ス
其家屋ノ内面ヲ携帶シ全焼ナレバ之レニ其旨
ヲ記シ若シ焼残ノ部分アルハ精細ニ朱線ス

シ然レ氏處々小損害ヲ蒙リ一定ノ部分ヲ限ラ
スシテ畫線シ能ハザルモノハ其損害ヲ受ケタ
ル部分ヲ記録スベシ即チ第六雜形ノ如シ
如斯ク畫線及ヒ記録シタル後チ其家屋所有主
ニ告示シ証印セシメ保險局ニ差出スベシ
但家屋悉ク燒失セスト虽モ其燒殘ノ部モ亦
害ヲ蒙ムル甚シク都テ之ヲ撤壞シテ更ニ基礎
ヨリ新築ヤサルヲ得サルニ至リ其殘餘ノ築
材ノ價ハ大概只撤壞及ヒ收拾料ノミニ充ツ
ベキトハ之ヲ全燒ト見做スベシ

第三十條

保險條例第六條ニ隨ヒ消防ノ爲メ止ムヲ得ス
毀傷スル損害ハ總テ燒損ト同視シ評價スルモ
ノトス

但保險ヲ受ケサル建物ハ此限ニアラス

大蔵省

